

『砂防公開講座』開催される

国土交通省利根川水系砂防事務所では、二月三日、第十五期第四回砂防公開講座・『工事現場で学ぼう』を行いました。インターネットで募集したところ二一名に参加して頂きました。

講座の内容は、午前が高崎市中央田町での堀の沢第二砂防堰堤工事、午後は、藤岡市譲原地先で地すべり工事を見学するもので



今回のテーマは、普段踏み込めない砂防工事現場に入り、厳しい現場の環境、砂防設備の大きさ等を見て、触れて、体験して頂くものです。工程の関係で建設機械の作業風景は見られませんが、工事の途中段階とあって普段と違った感触が体験できました。たくさん質問も頂きました。



『明治の巨石堰堤』を

たずねて

二月二十日、所々残雪が残る寒い冬の午後、明治時代に造られた巨石堰堤を調査してきました。

まず、訪れたのは悪沢。ここには二基の巨石堰堤があります。船尾滝駐車場で車を降りて、昭和四〇年代に整備した治山堰堤の工事用道路と思われる山道を登ります。登山ですが、わずかに二十分で到着です。パンフレットの表紙に掲載されているそのものです。二ヶ所程石が抜けていますが、まだまだ現役選手です。上流の一基はここから十分程で行けます。



つぎに訪ねたのが八幡川です。ここには五基の堰堤が確認されていましたが、最新のデータでは六基となっております。今回は、下流から二番目と四番目を訪ねました。

まず訪れたのが、下流側の堰堤です。水の流れに対して、あるいは堰堤の安定を考えると、巨石を上手に配置していることがうかがい知れます。また、堰堤の天端から川を眺めると、上流側は満砂状態で河床勾配も緩く、堰堤直上流には洗越しが設置され、道路が横断しています。下流側は手付かずの状態ですが、さすがに堰堤には側壁、垂直壁、水叩が設置されていました。河床勾配が急であるため補強したものと思われる。

